

(様式第4号)

上田市消防委員会 会議概要

1 審議会名	上田市消防委員会
2 日時	令和 4年 9月 26日 午後 1時30分から午後 3時20分まで
3 会場	上田地域広域連合消防本部 3階大会議室
4 出席者	宮島会長、池田副会長、上原委員、荻原委員、小相沢委員、清水委員、箱山委員、廣川委員、堀内(希)委員、堀内(健)委員、堀内(正)委員、宮川委員、宮崎委員
5 市側出席者	堀池消防部長、西澤消防総務課長、長谷川消防団担当政策幹、山田危機管理防災課長、高橋消防総務課長補佐、峯村消防総務課長補佐、福澤上田市消防団長、宮原上田市消防団副団長、山岸上田市消防団副団長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和 4年 9月 27日

協 議 事 項 等

1 開 会 (消防総務課長補佐)	
議事前に、前回欠席した委員からあいさつをいただく。	
2 議事	
(1) 第1回委員会の審議概要の確認について	・・・・・・(資料)
西澤消防総務課長から資料に添って説明 質疑等なし。	
(2) 機能別消防団員について	・・・・(資料番号2)
ア 全国、県内の状況について	
・峯村消防総務課長補佐から資料番号2の6ページから9ページに添って説明	
イ 上田市消防団で創設を目指す機能別消防団員について	
・福澤団長から資料番号2の10ページから11ページに添って説明	
・以降、協議	
(委員) 先日懇談会で、傍陽で発生した林野火災の時にドローンを使用したという話を聞き、ドローンの使用というのは非常に良いことだと思うが、免許や機体の購入等で60万円ほどかかるという話も聞いた。コストがかかるのは分かるが、ドローンの操縦士についても機能別として、各分団に1機ぐらいは導入しても良いのではないか。	
(消防団) 傍陽で発生した林野火災の際には隣接の長分団が現場でドローンを使用している。長分団は、令和元年東日本台風以降、分団で独自に導入している。県消防学校でも団員を対象とした講座も開かれている。国土交通省への申請や、免許等の事もあるので、消防団全体として今後検討したい。	
(事務局) 消防本部でも既に導入しており、現在1機のドローンを運用している。 機体性能も年々良くなり、ドローンの価格も大きく揺れ動いているため、現時点で消防団に大量に導入配備するのは時期尚早だが、人が入れない場所での活用などを考えると非常に有効な機器であることは間違いないので、操縦する者の育成や予算を課題とし	

ているが、今後導入について検討したい。

(委員) 昨年自治会長の時に地元分団からドローンを導入したいという話があり、各分団でドローンが必要なのかという話を分団幹部としたが、消防団としての導入後についての方針等も含めて消防部と精査し、検討して欲しい。

(議長) この件については、今後検討して欲しい。

(委員) 機能別消防団員について何点かお聞きしたい。まず1点目は、上田市消防団として、機能別消防団員を導入し、どのような活動を期待しているのか、2点目は、指揮命令系統をどのように考えているか、3点目は、どのように訓練を行い、各分団でどのように確保するのか、4点目は、分団から機能別消防団員の導入についての要望や運用していく覚悟はあるのか、5点目は、それらをクリアし、団として機能別消防団員を導入するのは何年先を目指すのか。

(消防団) 各分団長は平日昼間に発生する災害に団員が集まらずに対応できないことに苦慮しているため、導入については、平日昼間に地域に居る消防職団員のOBに協力いただくことを想定している。

指揮命令系統をしっかりとするためには、分団長、副分団長、部長の指揮下に入っていないただかなければならない。また、分団内の定期的な会議や打合せ等も必要と考える。

機能別消防団員確保については、各分団だけでは無理があると考えており、団本部も協力して対応する。

ただ、機能別消防団員の受入れ態勢について各分団で温度差があるため、各分団からの聞き取りや説明をしながら、上田市消防団として制度を導入していきたいと考えており、機能別消防団員の活動内容については、導入後に5年ほどかけて点検しながら対応していきたい。

(委員) 各分団すべてが導入を望んでいるわけではないのか。また、制度導入後5年程度を目指すということで良いか。

(消防団) 各分団長には機能別消防団員の制度導入については説明しており、導入を望む分団長もいるため、5年かけて考えていく。

(委員) もう1点、導入条件について、人口減少が顕著な地域としているが、ほとんどの地域が該当しているので、希望する分団はすべてで良いと考える。

また、資料の県内の中に地域や支所で1個分団を形成している事例が入っているが、武石地域には合併前に役場分団があったため、市役所分団も加えてはどうか。

市職員は3年から5年は団員として全員が活動してもらうことが良いと考える。事業所ごとの機能別分団があっても良いと思う。そうすると、商工会議所と打合せが必要になる。事業所にも団員募集を訴えかけるために、商工会議所にもピーアールしてはどうか。

(消防団) 役場消防団の関係だが、先日県の女性消防団員活性化の会議に出席した際に、立科町と南木曾町の団員と話をしたが、ここでは役場に就職すると団員になることが条件となっているとのことであった。

他の自治体でも合併した旧町村部では団員確保に苦慮しているという話も聞く。上田市も同様であるため、機能別消防団員の制度を導入した後に、モデル地区として地域ごとに考えたいと思う。また、商工会議所の件だが、先日も会頭と団員確保について話

をしたし、毎年商工会議所の会議で時間をいただき、話をしている。

(委員) 平日昼間に対応してくれる方とのことだが、事例や入団状況を教えてほしい。

(事務局) 平日昼間に発生する災害に対応している事例やOBの機能別消防団員としての入団事例は全国的にあり、県内でも塩尻市では、合併した旧楢川村で平日昼間に団員が別の地域に仕事に出てしまうため、地元に住ないことから、OBの皆さんがその間の消防団活動を担っている事例がある。

(議長) 機能別消防団員制度を導入して、組織として機能するものにしていくのか、それとも基本団員を増やすための機能別消防団員なのか。地域の実情もあるので良く考えなければならない。

(委員) 関連で意見させてもらう。団員が高齢化している状況で、退団後にまた機能別消防団員としての活動が出来るのかと考えてしまう。日中にポンプ車に乗り、水を出し火災現場に行くことを期待されても、今更出来ないという声が多くあり、後方支援ということであれば可能かもしれないが、訓練を行わないと現場には出ていけない。月に1回の役員会などでコミュニケーションを取りなさい、訓練をきなさいとした機能別消防団員の位置付けが、手伝いなのか本当に活動するのははっきりしないと地域のためにやってみようという人は出てこないのではないかと。分団や地域をモデルに5年計画でというなら良いが、機能別消防団員の立ち位置を消防団としてしっかりと考えてほしい。

(委員) 高齢者のOBが現場活動を行うことは、怪我等の不安もある。

(消防団) 今後、各分団とも打合せを行い考えていくが、基本団員確保が重要であるため、若い人にも入ってもらえるように考えていきたい。経験者が一番即戦力になるため当てにするところだが、若い人達にも基本団員として入団していただく方策ももっと力を入れていかなければならない。

(委員) 少し違うと思う。人口減少が顕著で分団内で出来ないことを機能別消防団員に補ってもらいたいという趣旨が続いている。ところが、機能別消防団員に期待するところでは、訓練はそんなにしないし、団員報酬も少ないという状況で、昼間の火災に対応してもらおうと言われると、あまりにもハードルが高すぎる。もっと機能別消防団員に期待することや、やってほしいこと等を明確にしないと基本団員が困ってしまうのではないかと。例えば、大規模災害時の自治会の繋ぎ役や、連絡役というものに期待しているのか、避難所運営を手伝うのか、小学校で子供達に対し広報してもらうのか、はっきりさせるべきで、災害対応だけではこの制度導入は難しいと思う。

(議長) 字面だけ見ると、基本団員とほぼ同じ内容を機能別消防団員に求めているが、実際問題として訓練をしないで消火活動の前面に出るのは難しいし、やるべきではないと思う。経験者でも後方支援や、広報活動に徹してもらうなどに絞った形にした方が良い。事例ではハードルの高い形の機能別消防団員を導入しているが、上田市としては基本団員を増やしていくということを前提に、機能別消防団員を導入するという形で良いのではないかと。

(委員) 今日の皆さんの話を聞いていて腑に落ちないのだが、若い人が機能別消防団員をやってみようと思ったときに、会議や訓練、災害出動にも出るとなると基本団員と変わらない。だったら、基本団員になってもらってその中から機能別消防団員を決めればよいのではないかと。11ページの内容は理想である。

(委員) 機能別消防団員の導入の件は良いが、基本団員を増やすことを考えるのであれば、言われているような操法訓練など、基本団員の負担軽減を考えなければならない。

(事務局) 団本部も危惧していることだが、基本団員になるのはハードルが高いが、機能別消防団員ならなっても良いという者が多くなり、皆が機能別消防団員になってしまうのは困るので差を設ける。機能別にはいろいろな種類があるため、具体的な事例は次回ご説明する。

(事務局) 本来機能別消防団員の導入は平成17年に全国で始まったもの。

上田市内の地域の皆さんからも、詰所のシャッターを開けて出動できる準備を行っても良いと言ってくれている地域もある。

青木村では、既に機能別消防団員の制度を導入しており、村内の工場の従業員が平日昼間のみ団員として活動しているという事例もある。

市内でも地域で動き出しているところもあるので、まずは制度化したい。

(委員) 私の住んでいる地域の自主防災組織は、消防職団員OBや日赤奉仕団の皆さんなどで活動しており、令和元年の東日本台風の際は、連絡は取りあっていたと思うが、自主防災組織と消防団が別々で災害活動していたため、自主防災組織を機能別消防団員に組み込めれば良いと考える。

(議長) 基本団員が減ることは非常に困ることなので、自主防災組織についても組み込みや連携等の対応を検討したほうが良いが、この制度を導入するにあたり、誰も制度を知らないうで終わることは避けたいので、市民に対し広報しなければならないと考える。

○協議結果：継続審議となる。

3 その他

・次回開催日について、委員に予定等を確認し、10月31日(月曜日)13時30分から上田地域広域連合消防本部3階大会議室で開催することに決定する。

4 閉会